

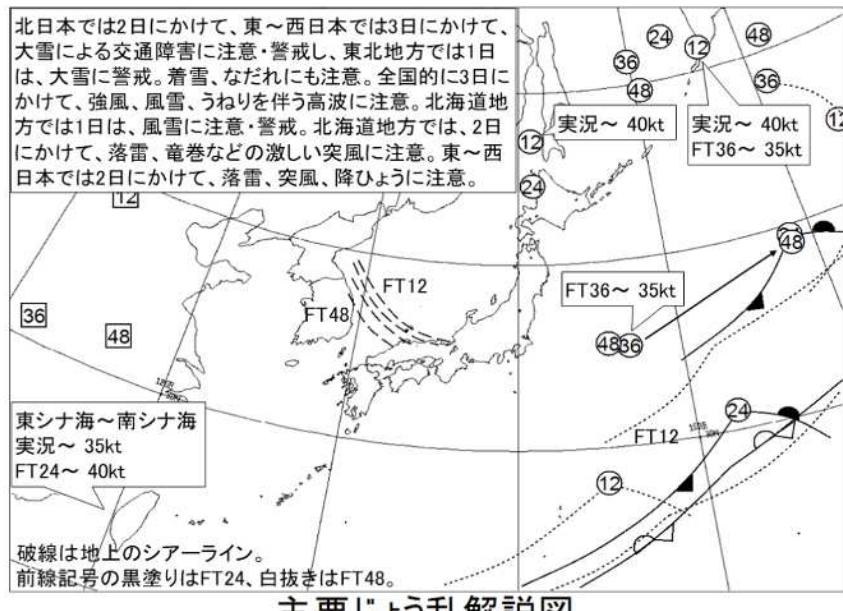
短期予報解説資料 2026年1月1日03時40分発表

气象厅

## 1. 実況上の着目点

- ① 日本付近は強い冬型の気圧配置となり、日本海寒帯気団収束帶(JPCZ)が北陸地方を指向している。北～西日本日本海側を中心に、3時間3～10cmの降雪を観測。気圧の傾きが急となり、北日本日本海側を中心に強い風を観測し、しけの所がある。全国的に、やや強い風を観測。

② 500hPa 5040m付近で-42°C以下の寒気を伴う寒冷渦が日本海北部を東進、寒冷渦を回る500hPa 5100m付近の正渦度極大域に対応した低気圧がサハリン付近を、ゆっくり南南西進。



## 2. 主要じょう乱の予想根拠と防災

### 事項を含む解説上の留意点

- ① 日本付近は、2日にかけて強い冬型の気圧配置を持続し、850hPaで-6°C以下の下層寒気が広く日本を覆い、JPCZは次第に中国地方を指向する。このため、降雪が強まり、普段雪の少ない平地でも降雪となる所がある。北日本では2日にかけて、東～西日本では3日にかけて、大雪による交通障害に注意・警戒し、東北地方では1日は、大雪に警戒。着雪、なだれにも注意。冬型の気圧配置の影響で気圧の傾きが急となり、強い風が吹き、しける所がある。南西諸島では大陸の高気圧の張り出しの縁辺で吹送距離・吹続時間の長い北寄りの強い風が吹き、しける所がある。全国的に3日にかけて、強風、風雪、うねりを伴う高波に注意。北海道地方では1日は、風雪に注意・警戒。

② 1項②のサハリン付近の低気圧は1日朝にかけて間宮海峡へ進み、北海道付近へ南下した後、2日朝までに不明瞭化する。上空の強い寒気や低気圧の影響で大気の状態が非常に不安定となる所がある。北海道地方では、2日にかけて、落雷、竜巻などの激しい突風に注意。2日夜には、500hPa 5220～5460mで-39°C以下の寒気を伴うトラフが日本海西部からボッ海付近で明瞭となり、3日にかけて日本付近を通過し、日本の東へ進む。2日夜には日本の東に低気圧が発生し、3日にかけて発達しながら日本のはるか東へ北北東進する。JPCZや日本の東の低気圧から関東の東へのびる気圧の谷に上空の強い寒気の影響も加わり、大気の状態が不安定となる所がある。東～西日本では2日にかけて、落雷、突風、降ひょうに注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量子想や降水分布はMSMやLFMも参考。

#### 4. 防災関連事項 [量的予報等]

- ① 雨量(06時からの24時間)：多い所（100mm以上）はない。② 降雪量(06時からの24時間)：北陸70、東北60、北海道50、中国30、近畿25、関東甲信20、九州北部10cm。③ 波浪(明日まで)：北海道・東北・沖縄5、伊豆諸島・北陸・近畿・中国・九州北部・奄美4、東海・九州南部3m。④ 大潮の時期。北海道地方と北陸地方では、注意報基準を超える所がある。

## 5. 全般気象情報発表の有無

「大雪に関する全般気象情報」を5時頃発表予定。